

非定型的 Hunt's Syndrome の一症例

須藤恒久*・森田盛大**・戸川 清***

I 緒 言

最近 Varicella-Zoster virus に対する C F 抗体の有意上昇した非定型的 Hunt's Syndrome の一症例を認めたので報告する。

II 患者並びに臨床症状

A 患者：宮〇了，14才，男

B 現症：

昭和46年12月20日頃から左側頭部，頭頂部及び耳後部にかけて疼痛あり，また37度2分位の発熱があった。24日頃から右顔面神経麻痺の症状が現われ，味覚障害も認められた。しかし乍ら，めまい及び難聴は起らなかった。12月28日，秋田大学附属病院耳鼻科を受診。同日の初診時の所見では，右鼓膜がやや発赤腫脹していたが，穿刺では貯溜液を認めなかった。

左鼓膜は混濁していた。鼻腔には膿性鼻汁を多量に認めた。外耳道に水疱性発疹は認められないが，右側頸部リンパ腺の腫大があった。右顔面神経の全支配下に不完全

麻痺を認めた。

筋電図所見（1月12日）は前頭筋（－），眼輪筋（－），口輪筋（±）であった。

C 経過：

発病時から1ヶ月半後に麻痺は漸く快復の兆を認めたが，3月21日（3ヶ月後）にも麻痺は残存し，4月10日（3ヶ月半後）頃にもまだ右眼を完全に閉じることが出来ない状態であった。

III 病原診断結果

Varicella-Zoster(V-Z)によるHunt's Syndromeの疑いにて，初診時の12月28日（8病日）及び1月13日に血清を採取し，V-Zに対するC F抗体の推移を検索した結果，このペア血清間に8倍から64倍への明らかな上昇が認められたので，水疱は認められなかったが，右顔面神経麻痺の出現した所謂 Hunt's Syndrome の不全型と診断した。